

## ダイワ通信、自律走行型配膳ロボ開発 一度に最大60kg

[ツイート](#) [シェア 0](#) [LINEで送る](#)

(2021/6/11 05:00)



金沢市内の飲食店で実証実験中のロボット

【金沢】ダイワ通信（金沢市、岩本秀成社長）は、自律走行で飲食物を運搬するロボット「CARRY FOUR（キャリーフォー）」を開発した。アフターコロナを見据え、非接触型配膳で省人化による配膳効率向上に貢献する。7月にリース主体で販売の予定で、利用料金は月額4万円以下に抑える見込み。

キャリーフォーは自社製除菌ロボット「UV FOUR（ユーブイフォー）」を基礎に開発。マッピング、自律走行、障害物の自動回避などの機能を生かし、指定した客席まで注文品を運ぶ。

配膳後は客が本体のスイッチを押すと自律走行で定位置に戻る。スイッチを押し忘れても、一定時間が経過すれば自ら定位置に戻る。注文品を置くトレイは4層で、一度に最大60キログラムまで運べる。

実証実験を行い、トレイ形状を角形から丸形に変更するなど改善を重ねた。実用段階では本体回転時の衝突回避、被害抑制能力の向上を図る。